

「結ネット」の導入と利用状況

大宮プラザ自治会

2025年11月4日（火）



大宮プラザ自治会の概要



世帯数と居住者、自治会員数

- プラザ地区居住世帯数：1,366世帯 内、自治会加入世帯数：1,116世帯
- プラザ地区居住後期高齢者：995人 内、自治会加入者：951人
- 自治会組織体制

役員：会長1名、各部担当副会長3名、会計1名

地区委員(1地区2名)計24名（各役員の担当する部門（※）に所属して活動）

※文化体育部、防犯防災部、環境衛生部、生活福祉部、総務管理部、広報部

各地区は班長を中心とした班により構成され、地区委員が取り纏めている

（現状113班）

「結ネット」導入経緯



世の中のデジタル化への流れと高齢化

近年の環境・状況の変化

- 以前、立ち上げたホームページもその後のシステム・メンテナンスが適宜行われず、結果、利用者の減少、システムの空洞化が進んでいた。
- 他方、自治会員の中でも高齢化が進み、回覧板を回すこと、各戸への通知等の配布、参加または応募用紙の回収などが困難になって来ていた。

現状への対応策の必要性

- LINEなどのスマホアプリの普及による回覧板の電子化、双方向の情報発信への利用可能性拡大

稼働後の状況と評価

■ 稼働後の状況

。 稼働当初登録者数：118名 10月13日現在：218名

。 メリット

- 各班毎の回覧に2週間またはそれ以上掛かり、申し込み期日等に間に合わない等の苦情があったが、稼働後「結ネット」利用者からは苦情が無くなった
- 必要に応じて緊急な情報の発信ができ受信者は着信通知で直ぐに情報を閲覧可能
- 発信時刻の指定もでき閲覧期限の設定ができるため、必要な時に必要な期間掲示可能
- 内容に対する問い合わせ機能があるため、利用者からの情報の確認が容易

。 デメリット

- システムの管理者、担当者への負担が大きい（操作ができる人の養成が急がれる）
- 高齢者が多く、ガラケーの使用者、スマホを持っていない人など、利用者拡大が時間を要する（高齢者への対応や、普及のための宣伝活動を更に進める必要がある）
- 従って従来の回覧板との併用期間が長くなることが予想され、コストや労力が費やされる

課題改善へ向けた施策



■ 課題改善施策

。 住民のデジタルデバイド（情報格差）の解消

- PC、スマホの操作に慣れ親しんでもらうための講習会、相談会（毎月3回開催）とその要員確保（現状講師4名）
- 独自活動の講習会・相談室等の活用（ボランティア謝礼金等費用負担）
- プラザ内での講師の養成とチームの編成

。 運用管理者の負担軽減

- 現状スタッフへの負荷の解消のため、情報発信と問合せに対する応答を各担当分野の責任者への分担
- デジタル担当役員の交代要員確保